

シャトルバスが各会場を循環運行して

大きなつのコンベンションホールに

医学会総会は北見市内の4施設、13会場で開催。

①北見市民会館は

メイン会場で、ロビーには総合受付ブース・ドリンクコーナー・企業展示ブースが所狭しと設置され、大ホールでは開会式、特別講演「知床・オホーツクの自然を守る」過去・現在・未来」などの講演が行われ、

また小ホールでは「集え研修医！研修医症例検討会 Doctor Cross in オホーツク」が開催され、北見赤十字病院の研修医「フオークダンス」も参加しました。

②北見芸術文化ホールは「地域連携・医療ネットワーク」

や看護部門の講演会が、また中ホールでは「消化器診療の最前線」など医師を対象にした講演、そして「看護、地域連携・僻地医療」などの発表がありました。



③市立体育センターは本紙第1面の既報通りです。

④ホテル黒部は診療支援の取り組み、管理部門、臨床工学科門、放射線技術部門、検査部門などの発表がありました。市内に分散した4つの会場間をシャトルバスが循環運行して各会場の連携を図りました。

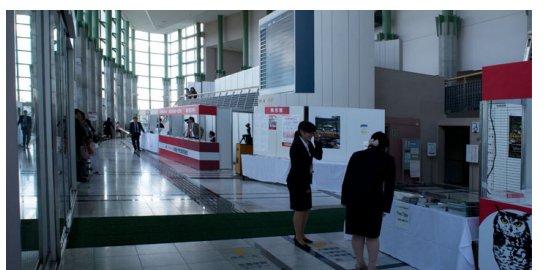
シャトルバスは開催期間中、10分から20分間隔で循環運行しました。これで、各会場の移動はスムーズになり、会場が離れているという感じは少なく、まるで、大きなコンベンションホール(大規模な会議場・展示場)で開催したような感覚です。北見のような地方



都市の限られた会場環境でもこのような大規模な催し物が出るのが判り、北見市民として、今後のコンベンションや観光の可能性を見いだしたと思います。本医学会総会を開催した北見赤十字病院の企画力、組織だった運営力は素晴らしい感動しました。15日夜、歓迎夕食会「医療人の集い」がホテル黒部の宴会場、同ホテル駐車場にテントを張った特別会場、ホテルベルクラシック北見の宴会場の3会場で開催された。

3つの会場はテレビ放映のネットワークで結ばれ一つの大きな宴会場のような臨場感で懇親を深めました。メニューはオホーツクの山や海の幸で構成され、特設会場では焼き肉や帆立などの炉端焼きを味わいました。

後日、このように食べ物がおいしい総会は北見が初めてだとの声が聞こえてきました。総会は盛大で成功裡に幕を閉じたものと確信しています。



総会開催時は突然の不都合への対応、クレーム処理と大変な裏方の任に当たった病院の総務課長はじめ、役員の方々のご苦労は大変なもの、慰労の気持ちでいっぱいです。当会の特別展示とドリンクコーナーのお手伝いを通じて日本赤十字医学会の皆さんとの嬉しい出会いを作ることが出来、有り難く思っています。(逢坂)

北見で経験したことのない壮大なプロジェクトが動き出した。総会参加者(当時は2000人を想定)の宿泊の確保など気の遠くなる多くの課題を1年掛かりで一つ一つ解決を積み重ねて、先日開催を迎えました。

編集後記
昨年の熊本開催で、第51回日本赤十字社医学会総会は北見で開催が決定しました。